

論文審査結果の要旨

論文提出者	(氏名) 有 田 晴 一
論文審査委員	主 査 稲 井 哲一朗 印
	副 査 大 野 純 印
	副 査 古 村 南 夫 印
論 文 題 目	Peptidylarginine deiminase is involved in maintaining the cornified oral mucosa of rats
(論文審査結果の要旨)	
<p>シトルリン化酵素 (peptidylarginine deiminase, PAD) は塩基性アルギニン残基を中性シトルリン残基に変化させる酵素でケラチノサイトで発現する。PAD は、角化にかかわるケラチンやフィラグリンなどの分子中のアルギニン残基を中性シトルリン残基に変えることで、角化、細胞の扁平化、バリア機能に影響を及ぼすことが考えられる。本論文は、ラット口蓋粘膜上皮の顆粒層細胞のケラトヒアリン顆粒中にあるプロフィラグリンが、PAD1 により既にシトルリン化されていること、フィラグリンモノマーがケラチン中間径線維と共存しないことを示し、表皮との違いを初めて明らかにした。さらに PAD1 によるシトルリン化の亢進がバリア機能を減弱することを示した。以上の結果は、表皮と口蓋粘膜上皮における角化が、形態学および機能的に違うことを示す有意義な研究である。公開予備審査会ならびに追加の審査において、研究の背景、目的、方法、結果および考察に関して明確な説明と質疑に対する適切な回答がなされた。以上により、本申請論文は学位論文として適格であると評価された。</p>	